

日本紀元	支干	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
年 號 延享四 一七四七	丁卯	二月廿四日 七月十一日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	正月西川如見天文方となる○三月強盜日本左衛 門を刺し、警備の監察に充つ○四月江戸城二丸災 す○八月板倉路跡殿中に於て、細川宗季を斬る○ 是歲田安宗武將軍を諫め登壇を辭す○太宰春澄 歿す 閏十月大岡忠相に封色一萬石を賜ふ	支那 清
年 號 寬延元 一七四八	戊辰	二月廿五日 七月十二日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月農工商の土地讓與授受の制度を改む 二月諸國の人口を調査す 八月新田衣瀧歿す	支那 清
年 號 寶曆元 一七五〇	庚午	二月廿七日 七月十四日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月諸國の人口を調査す 八月新田衣瀧歿す	支那 清
年 號 寶曆二 一七五一	辛未	二月廿八日 七月十五日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月諸國の人口を調査す 八月新田衣瀧歿す	支那 清
年 號 寶曆三 一七五二	壬申	二月廿九日 七月十六日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月諸國の人口を調査す 八月新田衣瀧歿す	支那 清
年 號 寶曆四 一七五三	癸酉	三月一日 七月十七日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月諸國の人口を調査す 八月新田衣瀧歿す	支那 清

日本紀元	支干	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
年 號 寶曆四 一七五三	甲戌	二月三十日 七月十八日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	十一月寶曆甲戌歳を順つ○寛永寺根本中堂修繕 成る 天皇侍讀伏原宣輝をして、拜香を講せしめらる、宣 條竹内式部を學政によりて遷轉す	支那 清
年 號 寶曆五 一七五四	乙亥	三月一日 七月十九日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月全國の人口を調査す○四月寛永寺仁王門再 建○朝廷公卿の武術稽古を禁止す○六月米價騰 貴せるを以て米商の密藏を嚴禁す○是歲竹田出 雲歿す	支那 清
年 號 寶曆六 一七五五	丙子	三月二日 七月二十日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	九月神田佐久間町の御所を毀す○六月天皇始 て日本紀傳代巻御覽あり、繪大寺公威等道講の傍 皇權恢復の事由を言上す○八月關白近衛内前實 續門院の旨を奉じ、神皇の遺蹟を止め奉る	支那 清
年 號 寶曆七 一七五六	丁丑	三月三日 七月二十一日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	三月天皇再び神皇を御覽し給ふ○六月高野野古 四洞院時名等御覽にて、水馬を賦む○近衛内前等 奏上して、竹内流の神皇御覽の不可を陳呈す○七 月内前天皇に御覽して、繪大寺公威等道講の傍 續以下竹内式部門人二十餘名を處罰す	支那 清
年 號 寶曆八 一七五七	戊寅	三月四日 七月二十二日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	四月眞價價還の令及月切實觀の制を申請す○五 月竹内式部を道致す	支那 清
年 號 寶曆九 一七五八	己卯	三月五日 七月二十三日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月江戸大火	支那 清
年 號 寶曆十 一七五九	庚辰	三月六日 七月二十四日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	二月武家諸法度を發す○十二月空米相場を禁す	支那 清
年 號 寶曆十一 一七六〇	辛巳	三月七日 七月二十五日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)	正月寺院の改宗進に廢址再興を禁す	支那 清
年 號 寶曆十二 一七六一	壬午	三月八日 七月二十六日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)		支那 清
年 號 寶曆十三 一七六二	癸未	三月九日 七月二十七日	天皇 皇太子 皇太后 皇孫 皇女	皇太后 皇孫 皇女	攝政道香(五月詔) ○內藤光榮(三月任、尋 ○前右源惟通(九月 ○左藤道香(十二月 ○左藤冬熙(十二月 任)	老西尾忠尚(三月補) 老松平武元(九月補)		支那 清

年	日本紀元	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
寬政七	二四五五 一七九五	乙卯	正(三)三六 八九十一	◎天皇 后*皇子居	◎上皇 太后*女 院	前内藤信通(九月薨)○ 關藤輝長(十月薨)○ 關藤政照(十一月薨)		三月家齊小倉原に狩す◎五月魯人蝦夷地を侵す ◎八月日蓮宗不受不施派を申棄す◎七月關山應 舉授す 五月古賀精里幕府の議員となる◎八月宋座に仲 買を置く◎九月古銅鑄所を江戸に建つ	清 朝 正 宗 六 〇 一 九
二四五六	二四五六	丙辰	二(三)四七			左藤政照(四月薨)○左 藤治家(四月任)○右藤 家春(四月任)○九月 ○右藤家季(九月任)○ 二月任)○右藤忠長(十 二月任)○内藤實起(十 二月任)		十月寛政新曆を頒つ◎十二月聖堂を改革し弘 文館を學問所と改稱し官立と爲す◎是歲魯人多 く蝦夷に往來す 四月吏を遣して蝦夷を巡察せしむ◎十二月諸藩 に令し蝦に米札發行を禁す◎十二月老中松平信 明蝦夷警備を管す◎近藤重藏蝦夷を巡察す	仁 宗 元 二 〇
二四五七	二四五七	丁巳	正(三)三五 (閏七)八			内藤實起(三月薨)○内 藤齊通(三月任)	老松本多忠勝(十月薨)		三二
二四五八	二四五八	戊午	二(三)三五			内藤齊通(五月薨)○内 藤實起(七月任)○十二 月任)○内藤實起(十二 月任)	老松本多忠勝(十月薨)		三二
二四九九	二四九九	己未	二(三)三四			内藤實起(三月薨)○内 藤家季(三月任)○前右 藤家季(五月薨)○前右 藤家季(六月薨)○前右 藤家季(十二月薨)	老土井利厚(十月薨)○ 老安藤信成(九月薨)	二月蝦夷奉行を置く◎五月水元才莊機軸を再興 す◎蝦夷奉行を置き奉行と改む◎七月東蝦夷地 を永久取公す	七 二
二四六〇	二四六〇	庚申	正(三)三四 (閏四)五			前内藤實起(六月薨)	老太田實愛(六月薨)○ 老牧野忠精(七月薨)	二月面鏡奉行に黒印並に下知狀を授く◎六月 中津道二授す◎七月米船長崎に來り貿易を請ふ 許さす◎十月前野實澤改す	五 二 四
二四六一	二四六一	辛酉	正(三)三五				老太田實愛(六月薨)○ 老牧野忠精(七月薨)	二月中津山山役す◎六月朝野の聯絡を對馬にて 受くることに改む◎九月魯使長崎に來り互市を 請ふ◎十一月林銜等外國成分の事宜を議上す	六 二 二
二四六二	二四六二	壬戌	二(三)五七				老土井利厚(十月薨)○ 老安藤信成(九月薨)	二月廣物振替の業を廢しす◎三月目付遠山景普 長崎に於て魯使に應接し其請を却く	七 二

年	日本紀元	干支	閏大月	皇	室	公家	武家	雜	支那
文化元	二四六四 一八〇四	甲子	正(三)三六 八十一				老松平信明(十二月薨)	二月面鏡奉行に黒印並に下知狀を授く◎六月 中津道二授す◎七月米船長崎に來り貿易を請ふ 許さす◎十月前野實澤改す	八 三
二四六五	二四六五	乙丑	二(三)四八				老青山忠告(正月薨)	二月中津山山役す◎六月朝野の聯絡を對馬にて 受くることに改む◎九月魯使長崎に來り互市を 請ふ◎十一月林銜等外國成分の事宜を議上す	九 四
二四六六	二四六六	丙寅	正(三)四九				水戸治保(十一月薨)	二月廣物振替の業を廢しす◎三月目付遠山景普 長崎に於て魯使に應接し其請を却く	〇 五
二四六七	二四六七	丁卯	正(三)五〇				老土井利厚(四月卒)○ 老松平信明(五月薨)	三月江戸大火(泉岳寺火事)◎九月魯人蝦夷に寇 す◎十一月琉球使參府◎十二月櫻濤輪備考案 圖成る	一 六
二四六八	二四六八	戊辰	二(三)五一					三月四蝦夷を收公す◎四月魯人蝦夷を侵す◎六 月若年野田正親蝦夷を巡視す◎江戸永代橋照 月柴野山山役す	二 七
二四六九	二四六九	己巳	正(三)五二					四月互相の聯絡を廢し下田浦附近に砲臺を 築く◎同宮林蔵に命じ神太の奥地を檢せしむ◎ 八月英船長崎に來りて蝦夷す◎九月加藤千庵改 す◎十二月南浦津經二藩に東西蝦夷の警備を命 ず	三 八
二四七〇	二四七〇	庚午	二(三)五三					四月松平容衆新編會津風土記を撰す◎六月神太 を北蝦夷と稱す◎九月大草公彌南山遊狩録を獻 す	四 九
二四七一	二四七一	辛未	二(三)五四					正月小野蘭山役す◎八月竹内式部授す◎十一月 水戸治紀大日本史を上梓す	一 〇
二四七二	二四七二	壬申	二(三)五五					正月源空に弘覺大師と勳諡す◎二月村田春海授 す◎五月魯國使節に來る戌兵欺て艦長コロ ン等を捕ふ◎是歲和蘭商館局を廢く	一 一
一八一〇	一八一〇	庚午	七 八十二					四月松平定信致仕して樂翁と號す◎八月魯國高 田屋高兵衛を海上に捕ふ◎十一月寛政重修諸家 譜成る	一 七 二

年	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
日本紀元 耶蘇紀元 二四七三 文化一〇 一八一三	癸酉	正(三)三三 九十一(閏) 十一(小)十二	○天皇 后*皇后 子居	○上皇 后*皇后 女 院洞	前關藤輔平(正月薨)		三月石清水臨時殿再興す○七月蒲生君平没す○ 九月管絃館本行等と應接し先年の振替を謝す ○尾藤二州没す	支那 朝鮮
二四七四 一八一四	甲戌	正(三)三七 九十二		○後櫻町(閏十一 月崩)	左藤治孝(四月薨)○左 藤忠長(四月任)○右藤 實忠(四月任)○九月 ○關藤政隆(九月薨) ○關藤忠長(九月任)○右 藤基前(九月任)○内藤 受徳(九月任)	老酒井忠道(四月補)	是歲海濱洲全圖成る	一九一四
二四七五 一八一五	乙亥	正(三)二四 八十二			左藤忠長(正月薨)○左 藤基前(正月任)○右藤 實忠(正月任)○二月 ○右藤政通(二月任)○内 藤實信(二月任)	將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	九月岩瀬京傳没す	二〇一五
二四七六 一八一六	丙子	正(三)二四 六八(閏八 小)十二				將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	是歲關原國史刻版成る	二二一六
二四七七 一八一七	丁丑	正(三)三四 六八十一	○光緒三月即位 ○九月即位 土御門 ○藤原子 (十二月女御)	○光緒(三月即位、 院政を行ふ)△櫻 町殿		將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	九月岩瀬京傳没す	二二一七
二四七八 文政元 一八一八	戊寅	正(三)二四 六七九十二				將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	三月真字二分判を鑄る○五月英船又浦買に来る ○伊能忠敬没す○十月一行院徳本没す	二二一八
二四七九 一八一九	己卯	二(三)三四 六八九十一			前右藤實信(正月薨)	將軍家齊(三月右大臣) ○老牧野忠精(十月薨)	六月草字壹分金を鑄る	二四一九

年	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四八〇 三 一八二〇	庚辰	二(三)四六 八九十二		○欣子内親王(三 月皇太后)	左藤基前(四月薨)○左 藤政通(六月任)○右藤 實忠(六月任)○十月 ○右藤實信(十月任)○ 内藤公修(十月任)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	六月新銀を鑄造す	二二二〇
二四八一 一八二一	辛巳	二(三)五七 九十二			内藤公修(四月薨)○内 藤尚忠(四月任)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	九月福保己一没す○十二月松前奉行を廢し其管 地を松前軍に還附す	二二二一
二四八二 一八二二	壬午	正(三)二六 八九十二			關藤忠長(三月薨)○關 藤政通(三月薨)○前右 藤實忠(九月薨)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	正月式部三馬没す○二月全國の人口を調査す○ 四月英船浦買に来る○九月相馬大作(下斗米秀之 進)を刺す	二二二二
二四八三 一八二三	癸未	正(三)三七 九十二	○女御藤原子(四 月薨)追號新皇嘉 門院	○藤原子(七月薨 皇后)	左藤政通(正月薨)○左 藤實信(正月任)○右藤 實忠(正月任)○内藤 久(正月任)○五月 ○内藤通明(五月任)○六 月 ○内藤實信(六月任)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	四月松平外記管中に於て木多伊織等を斬りて自 没す○太田南畝没す○十月清水實明に十萬石を 賜ふ○是歲原野野没す	二二二三
二四八四 一八二四	甲申	正(三)二五 八(閏八小) 九十二		○九月修學院殿宮 御幸	左藤政通(正月薨)○左 藤實信(正月任)○右藤 實忠(正月任)○内藤 久(正月任)○五月 ○内藤通明(五月任)○六 月 ○内藤實信(六月任)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	正月片山重次郎利政總領を上る○二月南嶽二朱 銀を鑄る○五月寶來金を鑄る○七月英船藤原實 島に來り振舞す	二二二四
二四八五 一八二五	乙酉	正(三)三五 七十二	○藤原子(八月女 御)		前左藤治孝(十月薨)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	二月外國船打掃のことを諭令す○諸國の運船漁 船等海上に於て外國船と親しむを禁す○九月和 蘭商船の旗章を定む	二二二五
二四八六 一八二六	丙戌	正(三)三四 六八十一			將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	十月近藤重藏御ありて分都左京亮に預けらる○ 是歲關原山關の日本外史成る○藤田巖谷没す	二二二六
二四八七 一八二七	丁亥	正(三)三四 六八十一			將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	八月菅茶山没す○是歲龜光に大福正宗國師と勅 號す	二二二七
二四八八 一八二八	戊子	正(三)三五 六八十一			將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	將軍家齊(二月左大臣) ○德川家慶(二月内大 臣)○老土井利厚(七月 卒)○老松平康元(九月 補)○上杉治清(三月卒)	十二月二分判金を改鑄す○是歲眞雅に法光大師 と勅號す	二二二八

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四九九	己亥	二丁丑五七		○天皇 后*皇子居	○上皇 △仙 院洞	前右藤愛徳(三月薨)	一橋治濟(二月借内大 臣)○松平定信(五月 卒)	二月高橋作左衛門歿す○六月近藤守重歿す○南 條一榮を賜る○七月二分利金を改鑄す 三月家齊吹上に於て相撲上覽○閏三月石川雅望 歿す	支那 清 九二九
二四九八	戊戌	二(癸)四 (閏四小)七 九十二				前内藤經豊(八月薨)	老松平宗實(九月薨)○ 老松平信順(五月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月外船東蝦夷を獲す○大阪川口を渡し天保山 を築く○七月十返舎一九歿す○十月松前章廣一 萬石の格に准せらる	一〇三〇
二四九七	丁酉	正(癸)三五 七八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	正月竹尾善實善考餘録を上る○八月巨盜次郎大 夫(鼠小僧)を梟す○九月頼山陽歿す○十月二朱 金を鑄る 六月登失金の鑄造を止む○是歲諸國饑饉、奥羽の 地味に甚し	一三三三
二四九六	丙申	二(癸)四五 七九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老松平宗實(九月薨)○ 老松平信順(五月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	十月天保通寶を鑄る○十二月仙石腰鎧を脱ぎ、仙 石久利の封を削り閉門を命ず、連坐する者多し ○是歲諸國饑饉	一四三四
二四九五	乙未	二(癸)三五 六(閏七小) 八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月大鹽平八郎亂を大阪に作す(三月平す)○七 月諸國通見使を發す此後又行はれず○五兩判一 分判(保守金)を鑄る○九月松平頼重願朝奉記を 上る	一五
二四九四	甲午	二(癸)三五 八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月江戸城四丸突す○閏四月勅諭の令を布く○ 六月大判金を改鑄す○八月水戸齊昭見封事を 上る○十二月松平本丸職藏英船渡來の事に就て上 る	一六
二四九三	癸巳	二(癸)四五 九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物を禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	一七
二四九二	壬辰	正(癸)三七 九十一(閏 七小)二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	正月森田市中村の三座を淺草に移す○二月神 佛の講社を禁す○三月矢部定謙を討す○宮樂行 及文身を禁す○攝津を併じ○六月學問教授所 を御寺國寺谷に再建す○七月石巻御郡神事 水等高價の物の賣買を禁す○役者遊女等の一枚 摺繪及好色本賣買を禁す○奥國船打掃の令を停 め文化三年の令に復す○十月天保通寶を鑄る○ 宮内省の書出する○寺門御軒、御草履、為水書水 等に淫猥の書なすに坐して罰せらる○朝廷京都 に學習所を建つ	一八
二四九一	辛丑	(閏正)大)三 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月香川景樹歿す○五月將軍家慶、水戸齊昭を召 し國政刷新の功を賞す○閏九月平田篤胤歿す○ 十二月林述齋徳川實紀を獻す	一九
二四九〇	庚子	正(癸)二六 八十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月外船浦賀に來る○江戸城本丸成る○五月市 川關十郎の奉行を賞す○六月答書を和蘭に贈る ○九月水野忠邦親親在職中執務不正の故を以 て其封を削る	二〇
二五〇〇	己亥	九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二一
二五〇〇	庚子	正(癸)二六 八十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二二
二五〇一	辛丑	(閏正)大)三 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月香川景樹歿す○五月將軍家慶、水戸齊昭を召 し國政刷新の功を賞す○閏九月平田篤胤歿す○ 十二月林述齋徳川實紀を獻す	二三
二五〇二	壬寅	正(癸)二四 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月外船浦賀に來りて互市を乞ふ○五月江戸城 本丸突す○水戸齊昭の國政を變更するを賞すし 致仕謹慎を命ず(十一月免す)○八月關越長崎に 來り國書を呈す	二四
二五〇三	癸卯	正(癸)二三 五八(閏九 大)十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二五
二五〇四	甲辰	正(癸)二四 六八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二六
二五〇五	乙巳	二(癸)四五 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二七
一八四五	乙巳	七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二八

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那
二四九九	己亥	二丁丑五七		○天皇 后*皇子居	○上皇 △仙 院洞	前右藤愛徳(三月薨)	一橋治濟(二月借内大 臣)○松平定信(五月 卒)	二月高橋作左衛門歿す○六月近藤守重歿す○南 條一榮を賜る○七月二分利金を改鑄す 三月家齊吹上に於て相撲上覽○閏三月石川雅望 歿す	支那 清 九二九
二四九八	戊戌	二(癸)四 (閏四小)七 九十二				前内藤經豊(八月薨)	老松平宗實(九月薨)○ 老松平信利位(十二月 薨)	二月外船東蝦夷を獲す○大阪川口を渡し天保山 を築く○七月十返舎一九歿す○十月松前章廣一 萬石の格に准せらる	一〇三〇
二四九七	丁酉	正(癸)三五 七八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	正月竹尾善實善考餘録を上る○八月巨盜次郎大 夫(鼠小僧)を梟す○九月頼山陽歿す○十月二朱 金を鑄る 六月登失金の鑄造を止む○是歲諸國饑饉、奥羽の 地味に甚し	一三三三
二四九六	丙申	二(癸)四五 七九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老松平宗實(九月薨)○ 老松平信順(五月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	十月天保通寶を鑄る○十二月仙石腰鎧を脱ぎ、仙 石久利の封を削り閉門を命ず、連坐する者多し ○是歲諸國饑饉	一四三四
二四九五	乙未	二(癸)三五 六(閏七小) 八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月大鹽平八郎亂を大阪に作す(三月平す)○七 月諸國通見使を發す此後又行はれず○五兩判一 分判(保守金)を鑄る○九月松平頼重願朝奉記を 上る	一五
二四九四	甲午	二(癸)三五 八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月江戸城四丸突す○閏四月勅諭の令を布く○ 六月大判金を改鑄す○八月水戸齊昭見封事を 上る○十二月松平本丸職藏英船渡來の事に就て上 る	一六
二四九三	癸巳	二(癸)四五 九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	一七
二四九二	壬辰	正(癸)三七 九十一(閏 七小)二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	正月森田市中村の三座を淺草に移す○二月神 佛の講社を禁す○三月矢部定謙を討す○宮樂行 及文身を禁す○攝津を併じ○六月學問教授所 を御寺國寺谷に再建す○七月石巻御郡神事 水等高價の物の賣買を禁す○役者遊女等の一枚 摺繪及好色本賣買を禁す○奥國船打掃の令を停 め文化三年の令に復す○十月天保通寶を鑄る○ 宮内省の書出する○寺門御軒、御草履、為水書水 等に淫猥の書なすに坐して罰せらる○朝廷京都 に學習所を建つ	一八
二四九一	辛丑	(閏正)大)三 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月香川景樹歿す○五月將軍家慶、水戸齊昭を召 し國政刷新の功を賞す○閏九月平田篤胤歿す○ 十二月林述齋徳川實紀を獻す	一九
二四九〇	庚子	正(癸)二六 八十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月外船浦賀に來る○江戸城本丸成る○五月市 川關十郎の奉行を賞す○六月答書を和蘭に贈る ○九月水野忠邦親親在職中執務不正の故を以 て其封を削る	二〇
二五〇〇	己亥	九十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二一
二五〇〇	庚子	正(癸)二六 八十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二二
二五〇一	辛丑	(閏正)大)三 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月香川景樹歿す○五月將軍家慶、水戸齊昭を召 し國政刷新の功を賞す○閏九月平田篤胤歿す○ 十二月林述齋徳川實紀を獻す	二三
二五〇二	壬寅	正(癸)二四 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	二月外船浦賀に來りて互市を乞ふ○五月江戸城 本丸突す○水戸齊昭の國政を變更するを賞すし 致仕謹慎を命ず(十一月免す)○八月關越長崎に 來り國書を呈す	二四
二五〇三	癸卯	正(癸)二三 五八(閏九 大)十一				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二五
二五〇四	甲辰	正(癸)二四 六八十二				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二六
二五〇五	乙巳	二(癸)四五 七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二七
一八四五	乙巳	七十九				前關藤忠貞(六月薨)	老野山忠裕(五月薨) 老松平宗實(十月薨) 老松平廣任(十月薨) 老松平直亮(十二月 薨)	三月水戸齊昭始て大砲を鑄造す○五月政事の革 新を令す○九月諸大名參勤に延着し又封鎖所 の後河内を禁す○十月市中賣賣の品高價の物な るを禁す○十一月郡村神事修禊に芝居見世 物なすを禁す○佐藤一善議員となる○十二月 葉垣船十組問屋の株式仲間を停止し又總問屋 組合を禁す○鳥居忠雄江川英龍に房總豆相問屋 場所檢視を命ず○谷文晁歿す	二八

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那	清
二五〇六	弘化三	丙午	正(三)三五 (閏五)小六 七九十一	○天皇 后*皇太子 ○仁孝正月崩 ○土御門殿 △土御門殿	○上皇 太后*女山 ○皇太后*女山 院	攝政(正月)二月 復(三月)三月 准大藏卿 (三月)三月	老青山忠良(九月)補 老松平兼全(十月)補 松平忠俊(十月)補	二月相州浦賀の守備を嚴にす 三月相州浦賀千 隊時に砲臺を築く 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五〇七	四	丁未	正(三)三六 七九十二	○九月即位	○藤子(三月)皇 太后*十月新開平 門院院號(同月)崩	左藤齊信(四月)補 右藤齊信(六月)補 忠(六月)任 ○内藤家 ○内藤家 ○内藤家 (十二月)任	老松平兼全(八月)補 老松平忠俊(八月)補 老松平忠俊(十月)補	二月水野野守丹波重書を上る 三月外船對馬 北海に出渡す 十一月瀬澤島登陸	支那	清
二五〇八	嘉永元	戊申	二(三)三五 九十一	○藤子(十二月) 女御		内藤家(二月)補 藤子(二月)補 ○内藤家 (三月)補 ○太藤政通(九月)補	老松平兼全(六月)補 老松平忠俊(六月)補 老松平忠俊(九月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五〇九	二	己酉	正(三)三六 九十二	○四月外船の渡來 にり國家安寧を 七社七寺に祈る	*新待賢門院(藤 子)二月院號		老松平兼全(七月)補 老松平忠俊(七月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一〇	三	庚戌	正(三)三六 九十三	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(八月)補 老松平忠俊(八月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一一	四	辛亥	正(三)三六 九十四	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(九月)補 老松平忠俊(九月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一二	五	壬子	正(三)三六 九十五	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(十月)補 老松平忠俊(十月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一三	六	癸丑	正(三)三六 九十六	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(十一月)補 老松平忠俊(十一月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一四	安政元	甲寅	二(三)三五 八十二	△土御門殿(四月) 災			老松平兼全(十二月)補 老松平忠俊(十二月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清

日本紀元	年號	干支	閏月	皇	室	公家	武家	雜	支那	清
二五〇六	弘化三	丙午	正(三)三五 (閏五)小六 七九十一	○天皇 后*皇太子 ○仁孝正月崩 ○土御門殿 △土御門殿	○上皇 太后*女山 ○皇太后*女山 院	攝政(正月)二月 復(三月)三月 准大藏卿 (三月)三月	老松平兼全(八月)補 老松平忠俊(八月)補 老松平忠俊(十月)補	二月相州浦賀の守備を嚴にす 三月相州浦賀千 隊時に砲臺を築く 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五〇七	四	丁未	正(三)三六 七九十二	○九月即位	○藤子(三月)皇 太后*十月新開平 門院院號(同月)崩	左藤齊信(四月)補 右藤齊信(六月)補 忠(六月)任 ○内藤家 ○内藤家 ○内藤家 (十二月)任	老松平兼全(八月)補 老松平忠俊(八月)補 老松平忠俊(十月)補	二月水野野守丹波重書を上る 三月外船對馬 北海に出渡す 十一月瀬澤島登陸	支那	清
二五〇八	嘉永元	戊申	二(三)三五 九十一	○藤子(十二月) 女御		内藤家(二月)補 藤子(二月)補 ○内藤家 (三月)補 ○太藤政通(九月)補	老松平兼全(六月)補 老松平忠俊(六月)補 老松平忠俊(九月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五〇九	二	己酉	正(三)三六 九十二	○四月外船の渡來 にり國家安寧を 七社七寺に祈る	*新待賢門院(藤 子)二月院號		老松平兼全(七月)補 老松平忠俊(七月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一〇	三	庚戌	正(三)三六 九十三	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(八月)補 老松平忠俊(八月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一一	四	辛亥	正(三)三六 九十四	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(九月)補 老松平忠俊(九月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一二	五	壬子	正(三)三六 九十五	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(十月)補 老松平忠俊(十月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一三	六	癸丑	正(三)三六 九十六	○藤子(三月)入 内			老松平兼全(十一月)補 老松平忠俊(十一月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清
二五一四	安政元	甲寅	二(三)三五 八十二	△土御門殿(四月) 災			老松平兼全(十二月)補 老松平忠俊(十二月)補	正月水野野守丹波重書を上る 二月大日本史紀傳刊成 三月外船對馬 四月相州浦賀の守備を嚴にす 五月江戶城水丸成る 六月關船長崎に來り英船渡 來すべし事を告ぐ	支那	清

日本紀元 年號	千支	皇 室	政 府	雜
二五八一 一九二一	辛酉	○天 皇△皇 后○皇 子 ○皇太后○皇 后○皇 子 ○ナツア島風害救恤の爲め 御内帑金五千圓御下賜。皇 太子殿下(二月)神宮山陵御 參拜。東京御學問所廢止。 三月淺草の爲御出發。四月 埃及王宮御訪問。五月倫敦 巴里。六月白岡。和蘭。七 月羅馬御府。九月御歸朝。 諸陵御參拜の爲近畿行啓。 十一月御遊學(大演習御統 監の爲行啓。攝政御就任) ○成久王(十一月御遊學)	總理原敬(十一月 ○臨時總理 內田康哉(十一月 任)○總理高橋是 清(十一月任)	正月後醍醐宮を神宮別宮として奉祀す○日比谷平左衛門遷去○社會主義者労働團體聯合大會開催○日支軍事協定廢棄公表○足利、千葉市制施行○二月大本教本部の崩壊○近藤廉平遷去○海上御儀の爲御平重大新儀式を行ふ○三月ヘンライ王族來朝○傳教大師一千百年遠忌○四月對支借款規程公表○米穀法公布○情地法債家法公布○航空法公布○皇太子一千三百年遠忌○堀尾貞勝遷去○五月各地勞働祭を行ふ○第二次國民飛行大會○池田理方就任○那覇、首里市制施行○上海にて日支水兵衝突○六月北九州出水○支那共和國民に關し日英兩國より國際聯盟に共同通告をなす○加州に排日暴徒起る○太平洋會議日本第二次交渉を公表す○八月暴利取締施行○渡邊千秋遷去○九月米國ワシントン會議全權委員加藤友三郎等任命○安田實次郎等死○十月第三回國際勞働會議セネガアに開會○鐵道五十年紀念○海軍大演習○埃及王朝來朝○米排日巨頭アライアン來朝○十二月ワシントン會議開始○新聞王ノースキップ來朝○十二月社會主義者大檢舉○臺灣朝鮮教育令發布○ナツア島及赤道以北委任統治に關する日支協約成る○第十四十五議會開院○高田慎藏遷去
二五八二 一九二二	壬戌	○三月小網代の臨海實驗所(行幸)○三月御平遊御祈願の爲香檳宮其他(行啓。十一月近畿行啓。攝政宮殿下(六月)渡々浦海軍飛行場行啓。七月北海道行啓。明治天皇十年祭の爲御西下。十月山梨縣行啓。十一月香川縣(大演習御統監の爲行啓)○赤壽王(四月御誕生)○依仁親王(六月遷去)○武彦王(七月佐紀子女王と御成婚)○馬彦王(十月御遊學)○德彦王(十一月御誕生)	樞密院議長高橋是清(二月任)○總理加藤友三郎(六月任)○内大臣平田東助(九月任)	正月大隈重信遷去○支那揚州開港に決す○日本移民組合成る○佛國岩礁使のヨアフル元帥來朝○日下部鳴鶴就任○山東鐵山日支合併に決す○樺太町村制公布○二月山縣有朋遷去○山東條約調印○樺山資紀遷去○三月加藤全權委員任命○平和記念東京博覽會開會○革新俱樂部成る○四月南洋羣島官制公布○セネガア會議全權委員任命○英國皇儲エドワード殿下御來朝○李王世子御遊學○關東地震○五月勞働祭○江原六段就任○六月山羽海谷右衛門就任○馬賊頭道清の我領事館を襲ふ○七月米國海軍艦隊アンペリ來朝○森村太郎遷去○高崎彌吉就任○八月東京商業會議所首屆全國節約デー○日本經濟聯盟成る○國際勞働代表選定○午砲禁止東京市議決○軍艦新高沈没○九月第三回國際聯盟總會開始○ピアード博士來朝○モリス博士來朝○十月臺灣人任用令公布○日蓮上人に立正大僧堂宣下○シモン博士來朝○早川千吉遷去○學制頒布五十年紀念○十一月香川縣下陸軍特別大演習○伊國皇族エモン侯來朝○アインシュタイン博士入京○十二月小野宮就任○山東鐵道細目協定調印○日支郵便條約調印○日波通商條約成立○第四十六議會開院

謹告

國史大辭典第五卷(增補)第二二七頁大正十二年度の皇室欄記事申久通宮、賀陽宮兩宮家の御事に就き恐多き誤謬を重ね候而已ならず今日まで心付不申候段眞に恐懼措く能はざる所に御座候

兩宮家へは直ちに拜趨致し御訖申上候讀者諸賢に對しても何とも申譯無之次第深く奉謝候就きては右

皇室欄全部削除仕更に別紙の如く謹んで改訂致し御送付仕候間乍御手数御切替被下度上願候

尙御希望の御方は該五卷壹冊弊館迄御送付被下候はゞ綴直し差上可申候 早々敬具

大正十五年十二月

編纂者 早川純三郎
編纂者 井野邊茂雄
發行所 吉川弘文館

昭和三年一月七日の手記

國史年表終

日本紀元 年號	千支	皇室	政府	雜
二五八五 一四 一九二五	乙丑	○天 皇△皇 后□皇 族 ○皇太后○皇 后*皇子女 ○二月社會事業獎勵の恩召にて十六萬圓餘御下賜、五月御結婚滿二十五年の御慶儀行はる、社會事業の爲め百萬圓御下賜。攝政宮(五月)關西地方へ行啓、七月江田島兵學校台臨演習御見學のため行啓、八月高松宮御同伴揮大(行啓)も同月還啓)*秩父宮(二月九州地方へ行啓、三月還啓、五月秩父宮御學のため御渡歐)□久遠宮朝王(一月伏見宮知子女王と御結婚)	内大臣 平田東助 (三月)宮内大臣 仲野(三月)内務大臣 木暮(三月)司法大臣 小川(二月)商工大臣 野田(四月)農林大臣 岡田(四月)陸軍大臣 堀(五月)海軍大臣 加藤(五月)文部大臣 津島(八月)外務大臣 廣田(八月)各省八月重任	正月芬蘭國通商航海條約公布○日露國交條約文及附屬文書調印終了、二月公布○山縣伊三郎佛領印度支那へ答復として派遣○各地大風雪○二月横田千之助薨○南樺天中原鄂州師寂○東儀鐵苗死○國際アヘン取締約調印○三月東京放送局假開始○東京日暮里大火○山縣答復條約○米原雲海死○サガレン守備隊撤去○四箇師團廢止發表○農商務省を商工農林の兩省に別ち官制發布○四月高橋是清政友會總裁引退、田中義一其後を繼ぐ○江木表死○平田東助薨○東京大阪大阪新聞間郵便飛行開始○久野久子自殺○治安維持法公布○五月對支文化事業協定成立○西班牙通商條約暫定取極○衆議院議員改正法律(普選法)及貴族院令中改正公布○墨西哥合衆國通商條約公布○政友、革新、中正三派合同○德川賴朝薨○田馬地方大激震○新正俱樂部創立○白耳義通商條約批准交換終了○六月上海暴徒蜂起○大町桂月死○木村庄之助死○七月三府議員總選舉○朝鮮大洪水○東京放送局本放送開始○朝日新聞社助成飛行機出發○加藤内閣總辭職○八月加藤高明第二次内閣を組織す○多久蘭死○九州醫科大學燒失○九月訪日ロシア飛行機及伊國飛行機到着○多額對選議員選舉○英國第四皇子ジョージ殿下來朝○議院全體す○濱尾新薨

今上(大正一四)

三二八

支那 民國

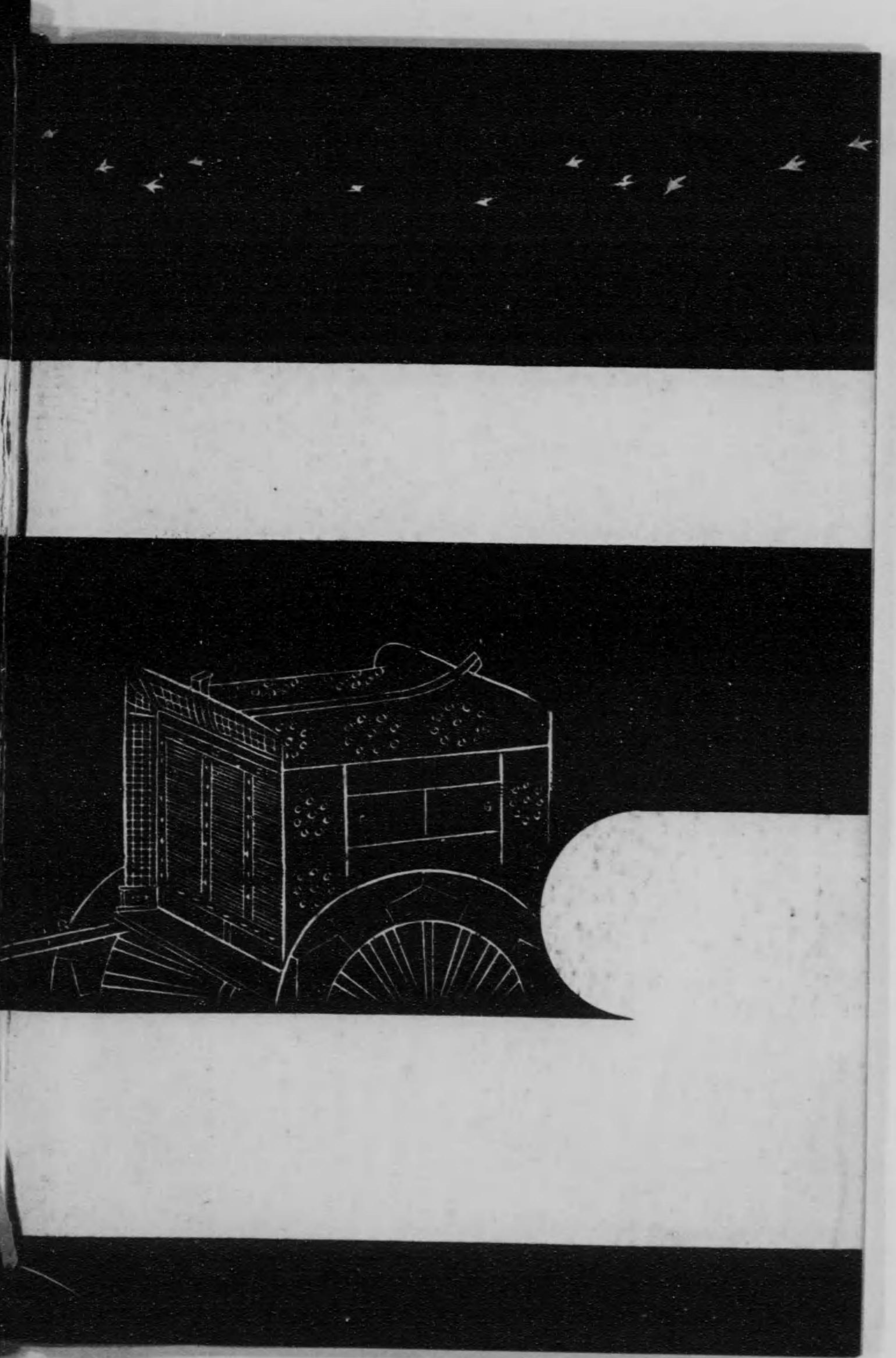
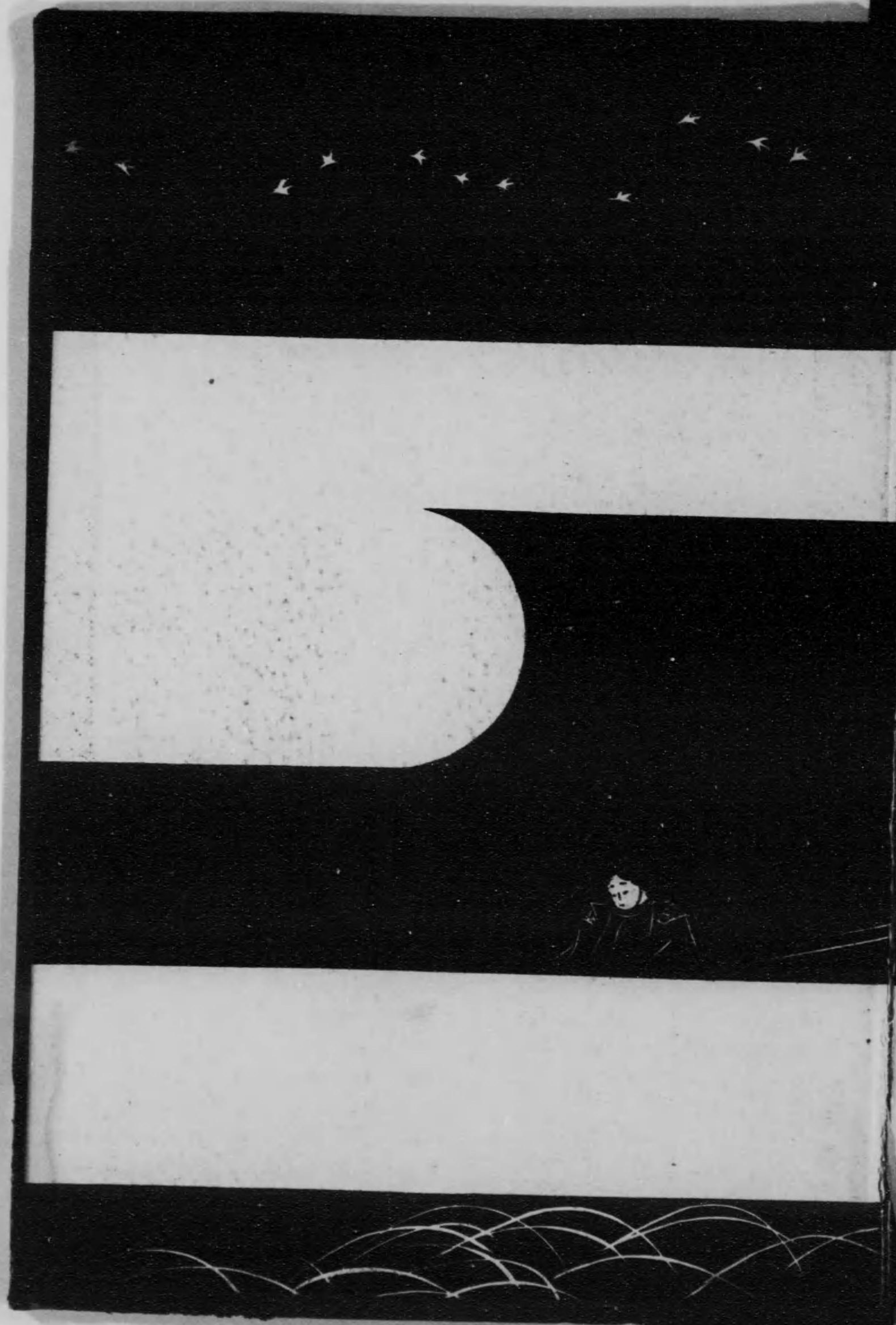
明治四十四年七月十一日發行
大正十四年五月五日増訂發行
大正十四年十月十五日増訂發行
大正十四年十月十五日増訂發行 (第五回)

編纂者 文學博士 八代 國治
同 早川 純三郎
同 井野 邊茂雄
發行所 東京市芝區芝町三丁目二番地 東洋印刷株式會社
印刷所 東京市芝區芝町三丁目二番地 東洋印刷株式會社

發賣所
東京市日本橋區數寄屋町 六合 會社
名古屋西區下長者町四丁目 川瀨 書店
大阪市東區北久太町四丁目 會社
東京市牛込區早稻田鶴卷町三二 柳原 書店
東京市京橋區鈴木町 國際美術社
東京市京橋區鈴木町 日用書房







終